



西方貝聞録

大型公共事業をめぐる論議で揺れ続けた諫早湾干拓事業は、97年4月14日の閉め切り工事から間もなく10年になる。干拓地はほぼ完成し、農水省は新たな堤の設置工事を潮受け堤防の沖合で本格的に始めた。調整池から排出される淡水と沖合の海水を混ぜ合わせる役割を堤に持たせ、アサリ養殖への影響を防ぐのが狙いという。漁場の保護対策を求めてきた漁業者の一部には、「さらに漁場が荒らされる」「開門せず、排水だけを行う決定打になる」と反対する声が上がっている。

(岡田玄)

「建設：干潟取り戻せぬ」

反対派 最後の闘い 決意

「導流堤」と呼ばれる新たな堤の設置に反対する諫早市の小長井町漁協の漁師6人が2月20日夜、諫早湾沿いの作業小屋に集まった。目の前の海で取れたカキを炭火で焼く。93年以来、ほとんど水揚げがなくなった夕

イラギの刺し身も並ぶ。「海はまだ豊かだ、と国は勘違いしただろう。でも、今の貝は養殖。昔は天然だった。タイラギはアサリの養殖場に偶然できたもの。今では海の底には何もおらず、漁業だけでは生活できない」。発泡酒をおりながら1人が言うと、男たちはうなずいた。

漁協は、養殖しているアサリやカキが全滅してしまつと、淡水の直撃を和らげる導流堤の設置を強く求めてきた。

だが、1年ほど前から、設置反対を表明する組合員が現れ始めた。その後も徐々に増え、今では98人いる正組合員のうち38人が反対派。導流堤ができれば、干潮時に堤が海面上に露出し、エビやコハダを取る船の航行に支障が出るという。

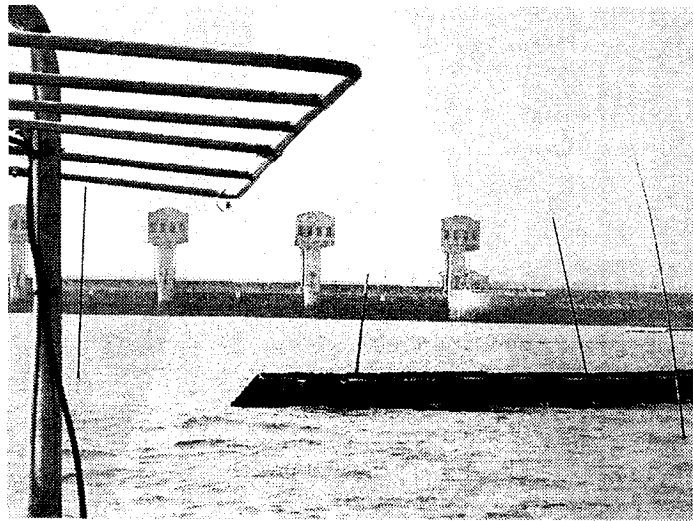
小長井町漁協は干拓事業に翻弄されてきた。同漁協理事の松永秀則さん(53)もその一人だ。86年、同漁協を含む諫早湾沿岸の12漁協は国

と、諫早湾干拓工事に伴う漁業補償の協定を結んだ。「本当は、工事はやめてくれと言いたかったが、どうすればいいかわからなかった。それから、生活に流された」。組合員の雇用確保のために01年、従業員12人を抱える建設会社を立ち上げた。4年間、干拓工事を請け負った。一方で、若い漁師たちには「海を元に戻す」と約束した。だが、建設会社を立ち上げたことで、仲間からは白い目で見られ、悩んだ。「自分には、海を戻す」と約束した責任がある。従業員の退職を機に会社をたたみ、漁業に専念した。だが、周りに認めてもらうには1年かかった

という。漁場を奪われ、やむなく干拓工事の建設作業に従事する関係者は多い。工事を請け負う建設会社の名前が入った作業着を着た60代の漁師はこう言う。「一家族の若い者が建設をやっているから、表だって反対と言えない人もいる。それでも海を取り戻すことが本当に若い者のためになる」。この漁師も漁で生計が立たず、「干拓工事の世話になつた」のだという。

農水省は、有明海の漁獲量減少は1980年代前半に始まっているとして、干拓事業の影響を認めていない。だが、潮受け堤防の建設が始まる前年の89年には6億5420万円あった同漁協の水揚げ高は、その後は右肩下がり。05年は1億63

湾早諫 れる



時姿を現す＝諫早湾で

漁民の認めぬ工事違法

明治学院大・熊本一規教授(漁業法)

ている漁業者がいる以上、漁協の同意だけでは不十分だ。

参考になるのは、山口県上関原発計画に関して

「導流堤が建設されれば、海が取り戻せんことになる。常時開門し、干潟を取り戻すための最後にして最大の闘いになる」。松永さんはそう断言した。

小長井町は諫早湾の北岸に位置する。潮受け堤防の北部排水門から、わずか3m。排水門からの排水で、農業用水として調整池にためられている淡水が1時間平均で50万ト流れ出す。このため同

小長井町漁協は干拓事業に翻弄されてきた。同漁協理事の松永秀則さん(53)もその一人だ。86年、同漁協を含む諫早湾沿岸の12漁協は国

と、諫早湾干拓工事に伴う漁業補償の協定を結んだ。「本当は、工事はやめてくれと言いたかったが、どうすればいいかわからなかった。それから、生活に流された」。組合員の雇用確保のために01年、従業員12人を抱える建設会社を立ち上げた。4年間、干拓工事を請け負った。一方で、若い漁師たちには「海を元に戻す」と約束した。だが、建設会社を立ち上げたことで、仲間からは白い目で見られ、悩んだ。「自分には、海を戻す」と約束した責任がある。従業員の退職を機に会社をたたみ、漁業に専念した。だが、周りに認めてもらうには1年かかった

という。漁場を奪われ、やむなく干拓工事の建設作業に従事する関係者は多い。工事を請け負う建設会社の名前が入った作業着を着た60代の漁師はこう言う。「一家族の若い者が建設をやっているから、表だって反対と言えない人もいる。それでも海を取り戻すことが本当に若い者のためになる」。この漁師も漁で生計が立たず、「干拓工事の世話になつた」のだという。

農水省は、有明海の漁獲量減少は1980年代前半に始まっているとして、干拓事業の影響を認めていない。だが、潮受け堤防の建設が始まる前年の89年には6億5420万円あった同漁協の水揚げ高は、その後は右肩下がり。05年は1億63

